

## 平成20年7月の解説（府県天気予報）

### 【7月の天候状況】

上旬は高気圧が西日本を中心に広く日本を覆い、各地とも晴れる日が多くなり、北日本では気温が高くなりました。中旬は北日本では天気が短い周期的で変わりましたが、その他の地方は晴れて気温の高い日が多くなりました。下旬は北日本では低気圧や前線の影響により雨で気温の低い日が多くなりました。その他の地方は晴れる日が多かったですが、東・西日本では27日から29日に局地的な大雨となりました。

月を通しての日照時間は、北日本では平年より少なくなりましたが、その他の地方は平年より多く、西日本ではかなり多くなりました。降水量は北日本では平年並みでしたが、その他の地方は大體平年よりかなり少なくなりました。気温は全国的に平年より高くなり、東・西日本ではかなり高くなりました。

### 【7月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で75%と例年<sup>(注)</sup>より5ポイント低く、明後日予報で73%と例年より2ポイント低くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は東北、関東甲信、九州北部では6から9ポイント低くなりました。明後日予報は関東甲信で例年より10ポイント低くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年と比べて0.4から0.8小さくなり、全国平均でも例年より0.5小さい1.9でした。また、最低気温の予報誤差もほぼ全国的に例年と比べ0.2から0.3小さくなり、全国平均では例年より0.2小さい1.2でした。

<sup>(注)</sup> 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【7月の天気予報から】

7月25日は、前線を伴った低気圧が日本海を東北東に進み、関東甲信地方には南海上から湿った空気が入り、大気の状態が非常に不安定となりました。関東地方北部を中心に積乱雲が発達し、所々で非常に激しい雨と突風が発生しました（図1）。東京地方では初めて竜巻注意情報を25日18時07分に発表しました。

前日（24日）の夕方に発表した25日の東京地方の天気予報は、「曇り時々晴れ夜雨で雷を伴う」で18時から24時の降水確率は50%、25日の朝に発表した東京地方の天気予報は、「曇りのち晴れ夕方から雨で所により昼過ぎから雷を伴う」で18時から24時の降水確率は50%でした。18時以降の降水確率を50%として雨を予想したのは、東京地方でも大気の状態が不安定で、積乱雲が発生・発達して広い範囲で雷雨となると考えたからです。

しかし、東京地方では日中は晴れ時々曇りで経過し、東京（大手町）では日照時間は10.6時間、最

高気温は34.5度まで上がり暑い一日となりました。図2の円で示したように、夕方には発達した積乱雲が埼玉県から南下してきましたが、東京地方に近づくとともに急速に弱まってしまいました。東京（大手町）では25日夜遅くから26日未明にかけて弱い雨（0.0ミリ）を観測しましたが、東京地方全域でも、25日20時にアメダスの小河内（奥多摩町）で1ミリの降水量を観測しただけで予報を大きく外す結果となりました。

このように大気的不安定による雨の予想は数値予報でも難しく、東京地方に積乱雲がかかるどうか微妙な時は数値予報の予想だけではなく、最新の観測データも用いて慎重に予報をしています。今回は予報に雨を表現すべきか否か、非常に難しい事例でしたが、こうした事例の検討などを通じて、今後も予報精度の向上を目指します。

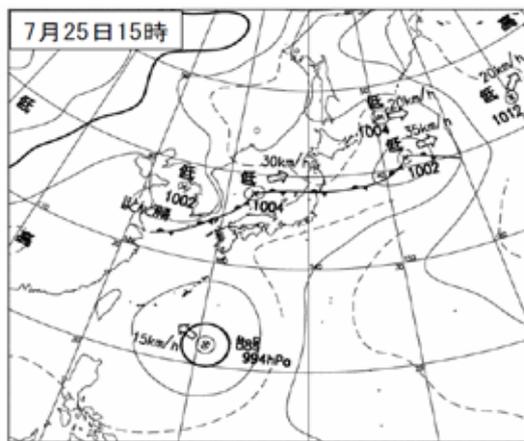


図1 平成20年7月25日 15時の地上天気図

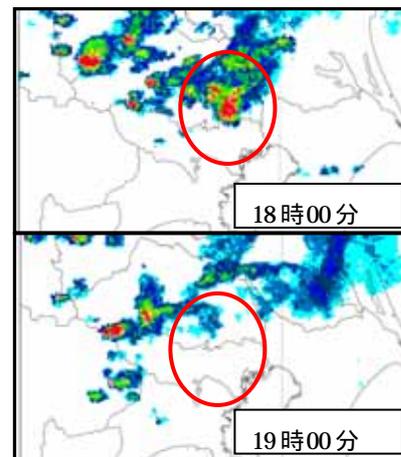


図2 平成20年7月25日のレーダーエコー

### 【9月の天気予報の利用にあたって】

9月は台風による災害の多い月です。最近10年間では台風による災害の無かった年はありません。大きな災害をもたらす要因としては、台風だけの場合と停滞前線などとの複合的な場合があります。中には、台風が日本から遠く離れて通過したにもかかわらず、大きな災害となった場合もあります。

平成12（2000）年の台風第14号は、9月2日にマリアナ近海で発生して西に進み、12日19時すぎに沖縄本島を通過した後、東シナ海を北へ進み16日15時に朝鮮半島北東岸で温帯低気圧に変わりました。この台風が沖縄の南東海上から東シナ海に進んでいた11日から12日にかけて日本付近には前線が停滞している（右図）、台風の東側を回って南よりの非常に暖かく湿った空気が流れ込んだために、東海地方では記録的な雨が降り、浸水による甚大な被害が発生しました。

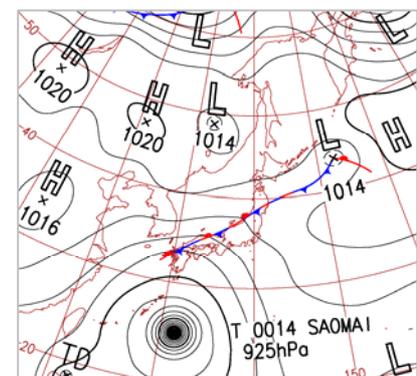


図 2000年9月11日09時の地上天気図

日本付近に前線が停滞している場合、台風の進路から遠く離れた地方でも大雨になり、災害が発生することがありますので、天気予報や気象情報に注意して災害に備えましょう。